

長谷稲刈りエコツアー

事務局

毎年恒例の「長谷稲刈りエコツアー」を、9月29日（土）、台風前の晴れ間に行いました。参加者は総勢10人。最年少（2歳）の男の子も、稲の束を持ってお手伝い。地元の皆さまから心のコもった郷土料理のおもてなしを受けて、和やかな時間を楽しみました。

稲刈りエコツアーに参加して

植原 啓太（うへはら けいた／インターン生）

例年は一泊二日で行われている長谷エコツアー。今年の日帰りでしたが、それが残念なほど良い土地で有意義な経験ができました。稲刈りは、寝てしまった稲を中心に一部を鎌で刈りましたが、一時間、大人が何人も関わっても、刈れる面積がこれほど少ないことに驚きました。当たり前かもしれませんが、現代のように機械のない時代の稲刈りは村での共同作業で日数もかかったことだろうと思いました。

稲刈り中にはたくさんの虫の声が聞こえ、サウンドスケープするまでもなく、当たり前前の環境がそこにあることを体感できました。また、刈った後の株のわずかな隙間の水分を求めているように見えたゲンゴロウや、刈られていない稲に逃げるバッタ・コオロギなどがたくさん目につきました。

小松さんに作っていただいた郷土料理は、呉汁をはじめとし地元の野菜の味が生きていて、煮物も新鮮な野菜も空腹を存分に満たしてくれました。初見のアケビを食べる等の体験ができたのも今回のツアーならではの体験だと思います。

長谷という山に囲まれた自然の中で、短いながらも充実した時間を過ごせたのは、たくさんの方が行きかい、パソコンや携帯でやり取りをする都会の日常から離れ、心を落ち着かせることができたからだだと思います。新米を楽しみにしようと思います。

浦谷 収（うらや しゅう／インターン生）

これまで何度か訪れている長野ですが、今回初めて伊那市長谷に行く機会を頂きました。台風も近く心配していた天候にも恵まれ、無事に稲刈りを行なうことが出来ました。私自身、東北の出身ということもあり、茅野の駅を出てから長谷までの道はふるさとの風景と重なり、まさに日本の原風景がそこには広がっていました。

長谷の皆さまにも温かく迎えていただきました。小松さんが作って下さった郷土料理は本当に美味しく、やはり田舎のごはんはいいなと改めて実感しました。特に、枝豆をすり潰した「呉汁（ごじる）」は忘れられない味です。お昼ご飯ながらもおかずがとっても美味しいのでご飯が進みました。肝心の稲刈りも稲穂がとても良い色になっており、いいタイミングでした。皆さまに美味しいお米をお届けできるかと思います。

また長谷に行くことが出来ると思うと、わくわくします。ぜひ中尾歌舞伎も観る機会があれば良いなと思っています。長谷の皆さま、本当にありがとうございました。

